

5年 単元名「環境問題について考えよう」（12時間）

～海を知る・守る～

1 単元設定の理由

小木の海の環境について知り、問題点に気づき、小木の海の環境を守るために自分たちにできることや社会全体としての取組を考える。

2 単元目標

身近にある「海洋ごみ」の現状を知り、小木だけの環境問題ではないことに気づき、環境保全活動を通して、主体的に環境問題に関わり、自分や社会全体でできることは何かを考え実践しようとする。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分たちの住む地区の環境問題について知り、自分ができることについて主体的に取り組んでいる。	海の環境に問題を見だし、計画的に追求し、自分たちにできることは何かを考察し、表現している。	環境保全や啓発活動に取り組んでいる。	人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について理解している。

4 単元の指導計画

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一	1 2	小木の海の環境を振り返る。 ・ 1学期の活動を振り返り、ごみマップ作りを行う。 ・ どこにどんなごみがあるか、なぜ多いのかについて話し合う。	・ 調査結果をデータ化する。 ・ マップやデータをもとに、種類と要因についてまとめる。
二	3 5	自分たちにできることについて考える。 ・ ごみ問題で困っている人から話を聞く。 ・ 自分ができること、社会の力を借りてできること（=社会の力）をそれぞれ考える。 ・ それぞれの取組についての学習計画を立てる。	・ 事前に漁師の方と打ち合わせを行い、環境問題と密接に関わっていることを話していただく。 ・ 自分ですることには限界があること、社会の力も借りないと実現しないことを理解させる。
三	6 12	発信に向けて取り組む。 ・ 「自分ができること」を「小木小海ごみ0宣言」としてまとめる。 ・ どのような方法で発信するか話し合う。 ・ 動画の例を見て、見通しを持ち、発信内容を考える。 ・ 能登町民にむけて発信するための動画撮影に取り組む。	・ 相手意識を再確認し、「広く伝えるための発信方法」に絞って考えさせる。

部連携／教材等

能登海上保安署 堀川悠介さん 相馬将也さん

能登里海教育研究所 木下靖子さん

底引き網漁師 浦下誠也さん

能登町役場 有線放送「のとホットライン」

【参考動画】「海と日本 PROJECT in かがわ」～海底堆積ごみ処理システム～

～全国初の海ごみ回収処理システム香川県方式～

「海と日本 PROJECT in いしかわ」石川テレビ各地域の動画・写真提供

松波中学校 「私たちは海を守っていきます」

5 活動の様子



海岸清掃の様子



ごみマップ作成の様子



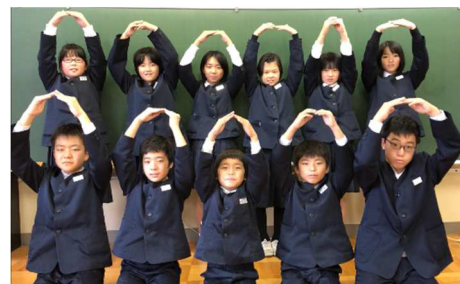
GTによる講義



環境保全の話し合いの様子



九十九っ子発表会



発信動画撮影の様子

6 成果・課題

- 児童の思考の流れに沿って、学習活動・単元計画が実行できた。
- 児童の主体的な思いを実現するための施設、GTが整っているためスムーズに学習ができた。
- 「環境問題」をテーマに多くの方々と関わることができた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・漁師さんは、仕事をしているときにごみが網に引っかかって、破けてしまうから困っていると分かりました。海の中にごみを出さないために、自分に何ができるのか考えてみたいです。
- ・友達と話し合ったり今までの勉強を振り返ったりすると、自分ができることはすごくあると思います。自分じゃできないことも、人の力を借りた方がもっとできることが増えると思いました。ぼくは、ごみが捨ててあっても拾い続け、納得するまでポスターなどで呼びかけたいです。
- ・海洋ごみを減らすためにできることを考えました。小木のほかにも金沢とか内灘とかにごみが落ちてあってびっくりしました。小木の町の人にはごみを捨てないと気を付けてほしいです。みんなにも「捨てないで」と呼びかけたいです。町の人みんなに協力してもらって実現したいです。